

BOOKLINK(本がつながる, みんながつながる)が目指す図書館像 : 「つながる」・「顔が見える」図書館に

井川, 友利子
九州大学附属図書館

<https://hdl.handle.net/2324/21748>

出版情報 : IAALニューズレター. 10, pp.12-13, 2012-04-10. 大学図書館支援機構
バージョン :
権利関係 :



本がつながる、みんながつながる
BOOK LINK が目指す図書館像：

「つながる」・「顔が見える」図書館に

九州大学附属図書館 井川友利子

九州大学は学生約19,000人、教職員約7,600人が在籍し、中央図書館だけで平日1日に約1,800人が来館する。日常業務だけではなかなか一人一人の学生を個として捉えることが難しく、「匿名の図書館員」と「匿名の学生」との間に距離を感じていた。

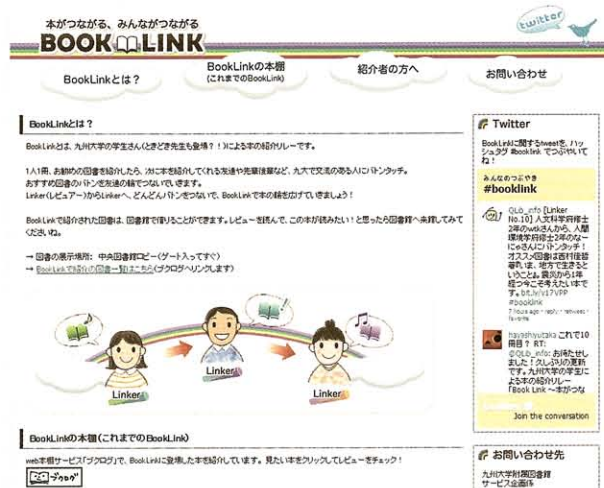
いまや図書館は学生にとって情報源の一選択肢でしかない。図書館に来ない学生は、来ない。それでも図書館に魅力を感じてもらい、選ばれる図書館になるにはどうすればよいか。

そこで目指しているのが、「つながる」・「顔が見える」図書館である。それを具現した企画のひとつとして、2011年9月より学生による本の紹介リレー「BookLink～本がにつながる、みんながつながる～」⁽¹⁾を開始した。

BookLinkの仕組みはいたってシンプル。おすすめ図書の紹介者となる学生（Linkerと呼ぶ）に、次のLinkerを指名してもらい、友達の輪をたどりながら次々と図書を紹介してもらおうというもの（いわゆる「いいとも」方式）。紹介文にはプロフィール写真と自己紹介、次のLinkerの紹介も

入れ、紹介者の人となりが見えるようにしている。紹介されたおすすめ図書は図書館内に展示し、web本棚サービス「ブックログ」⁽²⁾に掲載する⁽³⁾。開始当初はこれで本当に続けていけるのか一抹の不安はあったが、紹介が途切れることは

おすすめ図書紹介文



BookLinkホームページ

なく、展示コーナーも好評で多くの学生が足を止めて見てくれている。

紹介の頻度はそのときの学生の都合により、学祭や修論執筆などで間が空いてしまうこともあるが、目くじらを立てて提出期限に拘ることはなし、学生のペースに合わせてゆっくりと続けていくスタンスでいる。

紹介される図書については、やはり小説が多い。これを否定するわけではないが、様々なジャンルの図書を紹介してほしいという思いもあり、現在では大学院生や学部4年生がLinkerとなった場合は、「できれば、他専攻の学生も楽しめるような専門分野の図書」をお願いしている。この軌道修正による学生の反応が多少心配ではあったものの、例えばT.イーグルトンの『文学とは何か』がBookLinkの展示コーナーに置かれたとき、すぐに貸出されており、予想以上の好評に驚いている。今後、様々な専攻の学生がLinkerとなって、他の学生の知的好奇心をかき



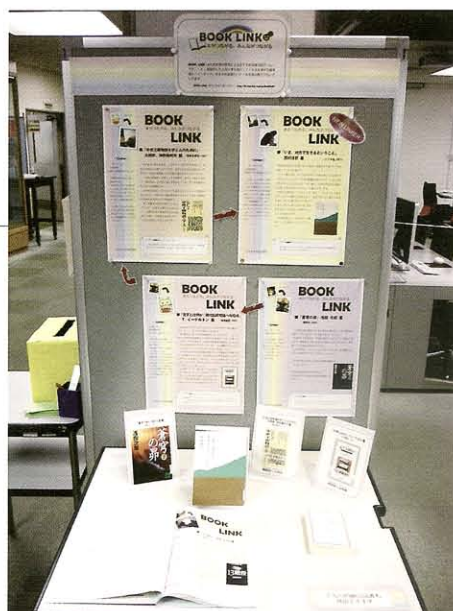
立てる図書を紹介してくれることを期待している。

図書館にあって、インターネットにないものは生身の人間同士のつながりである。しかも、学内でこれほど様々な学部や教員が集まる場所は、図書館をおいて他にはない。

図書館が、書庫にあらず図書館たる所以はそこに人がいるからこそである。だからこそ、無機質なハコをイメージさせるような図書館ではなく、図書館を利用する学生同士が交流できる場所になったら。さらには、「図書館員の〇〇」個人として「〇学部〇〇さん」にサービスするという形に少しでも近づけたら。

BookLinkの狙いは、図書とリアルな交友関係を媒介にして学生と学生、学生と図書館をつなぐことにある。図書館の隣席にいる学生の横顔を見せることで、紹介された図書も立体的に浮かび上がってくる。そうして見ず知らずの学生同士の化学反応を起こしたい。

図書館の中に人とのつながりを作ること、利用する学生の視野が広がり学習の幅が広がる。そんな図書館を目指している。



館内での展示



ブックログ

紹介文を書いた学生から

Aさんからのメール

先日、「BookLink」の展示を拝見いたしました。
ほとんどの本が借りられているのは、私たちの推薦文のおかげ、と調子に乗ってもよいのでしょうか(笑)
続きの方々の紹介される本も楽しみです。
展示場所がよいのか、1週間で多くの後輩から「あれ、先輩の文章ですね?」と話しかけられました。自分の文章がたくさんの人に見られるというのは、少し恥ずかしいですが嬉しくもありますね。

Bさんのtwitter

“図書紹介リレー書いたー中央図書館に掲示されるから俺が完成したものを見ることはないだろうw次は伊都を脱して芸工の後輩に回した!たのんだー!”

紹介文を書いた学生の周囲の友人・知人に口コミやtwitterで伝播しています。小さな範囲かもしれませんが、BookLinkは、「知り合いが図書館で何かしているらしい」というところから、図書館に興味を持ってくれる人がじわじわと増えることを意図しています。

[参考]

(1) 九州大学附属図書館. BookLink ~本がつながる、みんながつながる~ <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/booklink/>

(2) 九州大学附属図書館. “booklinkの本棚”. ブックログ-web本棚サービス. <http://booklog.jp/users/booklink>

(3) 実施に至る経緯等は、こちらを参照されたい。

国立国会図書館. “E1224”-九州大学が開始した学生による本の紹介リレー“BookLink””. カレントアウェアネス・ポータル. <http://current.ndl.go.jp/e1224>